

千葉県立中央博物館

特別展「鯨」

開催期間：2022年7月16日（土）～2022年9月25日（日）



【企画展の内容・目的】

- 鯨について生物学的観点、人文学的観点の両分野から紹介すると同時に、千葉の海、人、鯨の関係についても紹介しました。鯨を切り口に海洋環境や海洋生物、人と海のかかわりについて学ぶとともに千葉の海の豊かさを知ってもらう機会となることを目的としました。
- 生きた鯨類を見たり、触れたりする事業や子供たちが楽しみながら学べるワークシートや体験行事、より詳しく学びたい人むけの専門家による講演会を実施しました。展示内容を補完するような付帯事業を多く実施したことで、より海への理解を深めてもらえたと思います。
- 様々な施設にご協力いただき、生きた鯨類の観察など展示だけでは実現できない体験をする機会を提供できました。海の近くにある施設も多く、実際に海に足を運ぶきっかけを作ることができました。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2022年7月16日（土）～2022年9月25日（日）

■開催場所：千葉県立中央博物館 2階ホール・吹き抜け・第1企画展示室・
第2企画展示室・生物の分類展示室・廊下・
生態園海岸植生エリア

■入場者数：32,759人



千葉県立中央博物館 外観



企画展メイン会場 入口



導入展示「ようこそ！海の王者 クジラの世界へ」

入場券売り場からメイン会場までの間には、シャチのFRP複製2体と全身骨格1体を展示し、吹き抜けには大きなマッコウクジラの布プリントを設置しました。テレビ等で誰もが1度は見たことがあるであろうシャチとマッコウクジラを導入にすることで、来場者が鯨の世界に入りやすくなるよう工夫しました。また、実際に鴨川シーワールドで飼育されていたシャチの標本を展示することで、大きさを実感してもらおうと共に入場者の多くを占める千葉県民がより鯨に親しみを持てるようにしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第1章「鯨の歩んだ5000万年」

鯨が魚ではなく哺乳類の仲間であることや海へ適応していった過程を模型や骨格標本・化石のレプリカ等を使って紹介しました。地球環境や餌生物等の変化と絡めながら現在まで続く鯨の進化の歴史を紹介することで、生き物の進化の面白さだけでなく、生き物の進化は環境と密接な関係があることを知ることができるようになりました。

陸から海へ進出し、大きく姿を変えたムカシクジラ類の進化だけでなく、現生鯨類までの進化を途切れることなく、一連の模型を展示することで、過去から現在までの海の繋がりを感じられるよう工夫しました。また、ハクジラ類の最大の特徴であるメロンの構造は凶解でもイメージが付きにくいいため、新たにハクジラ類東部の透過模型を作成し、メロンの構造を3次元的に再現し、鯨類の海への適応を直感的に理解できるよう工夫しました。



第2章「今を生き抜く鯨たち」

珍獣と言われるイッカクや世界最大の動物であるシロナガスクジラなど興味を持ちやすい対象の骨格や現生鯨類90種ほぼ全ての1/25模型を展示することで、現生鯨類の生態を紹介しました。鯨の生態を通して、世界には多様な海洋環境があることを知ることができるようになりました。同時に現生の鯨の生態は彼らの進化の結果であることを紹介することで海の変化や生物の進化は過去のものではなく、今この瞬間も起きていることを感じてもらい、日々変化する海を調べ続ける意義を理解してもらえよう工夫しました。

鯨類の餌生物の標本や寄生虫などを展示することで、鯨類は海の生態系の一員として多種多様な海洋生物と関わっていることを紹介し、海洋環境と海洋生物、海洋生物同士の密接な関係を学べるようにしました。また、餌生物や寄生虫と一緒に人間由来の海洋ゴミを展示することで、海で起きていることを自分ごととして捉え、海洋保全に対する意識が高まるよう工夫しました。



第3章「千葉の人々と鯨」

千葉県における縄文時代から現代までの鯨利用の歴史を出土遺物や捕鯨道具、古文書や民藝品等により振り返ることで、千葉県が鯨との関わりが深い県であることを学ぶことができるようにしました。捕鯨の様子が描かれた万祝や捕鯨道具等を展示することで、海から命をいただく意味を考えるきっかけになるような展示を目指しました。

捕鯨や食としての鯨との関わりだけでなく、水族館やホエールウォッチングなどの現代の鯨との関わり方や鯨モチーフのグッズやオブジェなども展示することで、自分達の生活の中にも身近なところに鯨がいることを知ってもらい、海や海に関係する施設等に親しみを持ってもらえるよう工夫しました。



第4章「房総の鯨」

千葉県で捕獲・座礁した鯨の骨格標本および千葉県で記録のある鯨類の生体写真を展示し、千葉県は都道府県別で最多の35種の鯨類が記録されていることを紹介しました。多様な海洋環境のある千葉県の海には、生態系の上位を占める鯨類も多様な種が来遊していることを紹介することで、千葉県の海の豊かさを知ってもらい、鯨から地元千葉の豊かな海を誇りに感じてもらえるよう展示を作りました。また、新生児のマッコウクジラの全身骨格を展示することで、鯨に詳しい人でも飽きずに興味が持てるよう工夫しました。

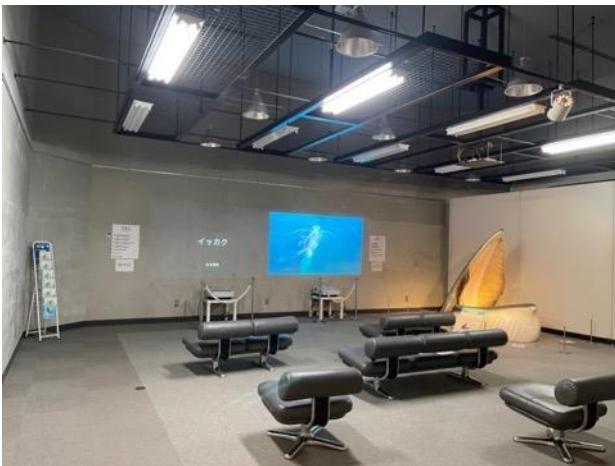


第5章「最新の鯨類学」

「新種の発見」というテーマを軸に現在行われている鯨類研究の一端を紹介することで、海にはまだわからないことが多く、海を研究することの意義や面白さを周知できるような内容になるよう心がけました。

また、紹介する研究の中では千葉県に座礁したツノシマクジラや千葉県周辺のスナメリの分類に関わる事例も扱うことで、地元千葉でも鯨類研究が行われていることを知ってもらえるようにしました。

研究の紹介だけでなく、調査道具や調査方法も紹介することで、実際にどのように鯨を研究するのか想像しやすくし、海の研究を目指す人が増えることを期待して展示を作りました。



映像コーナー

展示物だけでは生きた鯨の姿が想像しにくいいため、8本の生きた鯨の映像を放映することで展示内容の理解を深めていただきました。全身骨格を展示しているイッカクの泳ぐ姿やシャチが餌をとる様子、展示物だけでは説明の難しいヒゲクジラ類（カツオクジラ）が餌をとる様子を放映した。ヒゲクジラ類が摂餌に使う独特の器官「クジラヒゲ」の構造も分かりにくいので、クロミンククジラ頭部模型（クジラヒゲは本物）を映像の横に展示することで、ヒゲクジラ類の餌の取り方がわかるようにしました。

野生の鯨類の生態映像だけでなく、鴨川シーワールドで保護されたコマッコウの映像や（一財）日本鯨類研究所が実施しているバイオプシー調査等の映像も放映し、人と鯨の関わりについての理解を深め、海洋保全や海洋生物研究に興味・関心を持ってもらえるよう工夫しました。

【来館者の声】

- 海はいろんな生きもののすみかなんだなぁと思った
- 千葉の海にも、たくさんの生物が居ることが学びました。海の生物を守っていける生活を考えていきたいです。
- 改めて海にはおもしろい生物がいるんだなと実感した。実際に鯨をみたいと思った。
- 日本は海にかこまれた国で、自分はこの日本に産まれてとてもうれしい。なぜなら、そのおかげでこのはくぶつかんに来てさまざまな事を知ったから
- 海の広大さを感じた。私たちと比べて大きな鯨でさえ、大海原の中では小さい存在だ。たくさんの生物が生活している海はかけがえのないものだと感じた。
- 海洋調査の必要性 海の汚染について 千葉がたくさんの鯨を見られることを知った。
- 鯨を通して海の生物を学べたり、環境問題について考えさせられたりした。
- 人と海はとても身近だと改めて感じました。くじらも人も大昔から海で各々の生活を営み人は工夫や経験を重ねながら海を知り、それを守ることの重要性を学んでいったことに感動した
- 自分の住む地域の海の貴重性を知ることができ、実際に海へ行くことへの関心が高まった。
- イッカクみたいにしてすごい生きものがいたのでぜんめつしないように海をきれいにしておきたい
- 海にはたくさんのいきものがいる。とてもきれいですてきなばしょ！
- 海にはいろんなしゅるいのクジラがいるんだと思いました。もっと海の事が知りたくなりました。
- まずプラゴミの問題 ムカシからくじらと深く関わってきた 千葉県人として守っていきたいと思った
- 海の生きものの多様性について考え、鯨についてくわしくなっていました。娘の鯨・シャチ好きに拍車がかかりました。海を大切にするために自分でできることを考えたい。

2. 関連事業の内容

■オープニングセレモニー・イベント

【開催日時】 2022年7月16日（土） 10:00 ~ 10:30
13:00 ~ 14:00

【開催場所】 千葉県立中央博物館

【参加者数】 50人以上（午前44人以上 午後6人）

【実施内容・目的】

- 開幕初日の午前にオープニングセレモニーとして、知事より主催者挨拶、館長より展示の趣旨説明ののち、展示担当学芸員が30分程度の展示解説を行いました。
- 午後にはオープニングイベントとして一般来場者向けに1時間にわたる特別展示解説を実施しました。
- 担当学芸員の意図や思いを直接伝えることで、より展示内容に親しみを持ってもらい、理解を深めてもらうことを目的としました。



オープニングセレモニーの様子



オープニングセレモニーでの解説の様子

開幕初日だったこともあり、午前中から多くの方が来館していたため、展示開幕挨拶の後に行った展示解説には招待客以外に一般の来館者もたくさん参加してくださいました。ダイジェストで展示の見どころを伝えることで、展示で伝えたい海の学びを端的に理解していただけだと思います。また、解説終了後には来館者各々のペースで自由に展示を見て、より理解を深めていただけました。興味を持った方は午後のオープニングイベント（1時間にわたる展示解説）にも参加してくださいました。



オープニングイベントの様子



オープニングセレモニーの様子

オープニングイベントでは1時間にわたる展示解説を行ったため、参加者の多くが鯨類に興味のある方でした。展示を作る際の苦労話も交えながら解説をしたため、展示に親しみを持っていただけようです。また参加人数が多くなかったことから、参加者1人1人の質問に丁寧に答えながら解説を行うことができたので、より理解を深めていただけたと感じています。

【来館者の声】

- 鯨と人々のくらしのつながりについてとても興味深かったです。今日のセレモニー後の解説も聞きましたが、13:00~の解説でより理解を深められて良かったです。
- 海と生物と人とのかかわりについて。見足りないのもたまたま来ます。
- 解説（一時間）をききました。よくわかって楽しかったです。

■講演会「5000 万年地球の旅 クジラの進化と適応戦略」

【開催日時】2022年7月18日（月・祝）13:00～15:00

【開催場所】千葉県立中央博物館 講堂

【参加者数】73 人

【実施内容・目的】

- 鯨の研究者である加藤秀弘氏（東京海洋大学名誉教授・日本鯨類研究所顧問・おしかホエールランド名誉館長）に講師を依頼し、鯨の生物学についてお話いただきました。
- 展示内容について理解をより深めると同時に、研究者の話を聞くことで海を調べることの意義についても知っていただく機会となることを目標としました。



講演の様子



参加者からの質問

生物学的観点から鯨について講演していただきました。展示では深掘りしきれなかった部分を補完するような内容になっており、海の生き物の面白さを知るだけでなく、これからの海との付き合い方を考えるきっかけになったと思います。2時間近い講演となりましたが、参加者は熱心に聞いており、メモを取っている方も見受けられました。質疑応答の時間も設けましたが、質問がつきることなく、講演終了後も講師の前に列ができていました。実際に研究者の話を聞くことで、海を調べることの重要性や大切さも知っていただけたと思います。

【来館者の声】

- 加藤先生のお話で、マッコウクジラの家族、生き方、大変きょうみ深かったです。
- 千葉県こそ（3方海なので）海を大切にしていけないと思いました
- 海の環境の変化を感じる場面は多くなく、バランスの保たれた状態を維持していく大切さを考えることができました。

■観察会「ホエールウォッチング」

【開催日時】2022年7月24日（日）10:00～12:30

【開催場所】銚子沖・銚子海洋研究所

【参加者数】19人

【実施内容・目的】

- 銚子海洋研究所の協力のもと、船に乗って銚子沖に定住する小型鯨類「スナメリ」を探しました。
- 下船後にはスライドを使ってスナメリの解説、千葉県内で見られる鯨類を紹介するとともに銚子がどのような海なのかも解説しました。
- 鯨という動物自体は知っているが実際に野生のものは見たことはないという方が多いので、身近な海に鯨が住んでいることを実感してもらうと共に千葉の海の豊かさを知ってもらうことを目的としました。
- 実際に生きた鯨類を見ることによる感動や海に行くことで観察の楽しさと意義を直感的に実感すると共に海に親しむきっかけとなることを目指しました。



乗船前の様子



スナメリを探している様子

当日は少し風が強かったものの無事に出航し、2時間ほどスナメリを探索しました。スナメリが出たのはほんの一瞬で、残念ながらほとんどの参加者がその姿を見つけることはできませんでした。しかし、初めて船に乗ったという参加者や見られなかったからこそまた来ようと考えてくれる参加者もあり、海に親しみ、足を運ぶきっかけを提供することができたと思います。

また、銚子海洋研究所のスタッフさんがスナメリ探索中に、鳥が集まっているところや潮目には魚が集まっている可能性があり、そこにはスナメリなどのクジラ類も集まっていることがあるので、鳥や潮目を目印にしていることを教えてください、参加者も一生懸命鳥や潮目を探していました。スナメリを探すことをきっかけに海の生態系や海洋環境とのつながりを実感していただくことができました。



下船後のレクチャーの様子



スナメリの解説

下船後には30分ほどのレクチャーを実施しました。この事業で観察しようとしていたスナメリがどのような生き物かを紹介しました。また、銚子で打ち上がった17mのマッコウクジラなどの写真を見せながら銚子周辺には豊かな海があり、様々な鯨類が生息していることも紹介しました。担当学芸員が銚子で打ち上がったマッコウクジラの調査に参加していたため、調査の時の写真も見せながらどのように鯨を調べるのかも同時に紹介しました。この時のマッコウクジラの歯や背骨の一部を博物館に収蔵しており、本展示で展示していることを伝え、改めて博物館の展示を見に来てくれるよう促しました。海という現場と博物館を行き来することで、現場で得た体験と博物館での学びが結びつくように心がけました。

【来館者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 潮の香り、海の色、におい、モーターのにおい、泡、水しぶき、十二分に海を感じることができました。ありがとうございました。
- 身近な場所。その海により愛着を持てるようになりました。スナメリについてもう少し興味をもってみたいと思います。
- いろんな分野で研究している団体がいて子供達にも知ってもらいたいと思います。
- 海が、きれいでないと、生態形も変わってきってしまうので 海・自然について関心を持つ事が大事と深く感じます。

■観察会「ホゲール（捕鯨の町）ウォッチング」

【開催日時】2022年8月6日（土）10:00～12:30

【開催場所】道の駅WA・O!、鯨資料館、和田漁港（外房捕鯨解体場）

【参加者数】15人

【実施内容・目的】

- 関東唯一の捕鯨基地のある南房総市和田町を歩き、捕獲した鯨の解体場や捕獲対象種であるツチクジラのモニュメント等を見学しました。
- 道の駅や鯨資料館でシロナガスクジラの全身骨格や鯨の工芸品等を観察しました。解体場から道の駅までの道中は海岸沿いを歩き、過去にコククジラが漂着した場所などの案内もしました。
- 捕鯨基地そのものだけでなく、ツチクジラのモニュメントや骨、鯨料理屋のある千葉と鯨の深いつながりについて感じてもらうことを目的としました。
- 千葉の海の文化に直接触れてもらい、海洋生物利用と保全・海洋文化の継承について考えるきっかけになることを目標にしました。



ツチクジラのモニュメント
（和田浦駅前）の解説



解体場周辺の見学

南房総市和田町には関東唯一の捕鯨基地があり、町の至るところで鯨と人の関わりを感じることができる場所です。本事業の集合場所とした和田浦駅では、駅前にツチクジラのモニュメントが、駅構内にはツチクジラの頭骨が飾られており、江戸時代から現在に至るまで千葉県の人々が食べてきたツチクジラとの関わりを垣間見ることができます。本事業では、ツチクジラモニュメントの前でツチクジラの生態と千葉の人々のツチクジラの利用の歴史について簡単に説明しました。

和田浦駅から捕鯨基地まで歩いて向かい、途中で通りかかる鯨料理屋や鯨塚についても紹介しました。当日はツチクジラの解体は見られませんでした。解体場周辺の見学を行いました。どこから、ツチクジラの解体の方法や食べ方が地域によって異なり、独特のやり方があることなどを説明しました。千葉の人々とツチクジラの深い関わりについて知っていただく機会になったと思います。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



海沿いを歩いている様子



シロナガスクジラの全身骨格

解体場見学後は海沿いを歩きながら和田地域センターにある鯨資料館を目指しました。道中には過去にコククジラが座礁した場所なども通るため、希少な種類が日本の海に生息していること等を紹介しながら歩きました。

地域センターでは世界最大の動物であるシロナガスクジラの全身骨格（レプリカ）を観察し、海だからこそこのような大きな動物は生息できることを伝え、海洋生物の面白さと保全の必要性を知る機会としました。また、捕鯨砲や工芸品の展示もあるので、現代の鯨の捕獲方法や工芸品の作り方等についても少し解説しました。鯨の大きさを体感してもらうと同時に鯨を利用する文化について理解を深めてもらえたものと思います。また、すぐ近くにある道の駅 wao! では鯨料理の提供もあるので、興味のある方はお昼に食べてみてほしいとお薦めし、解散としました。この事業を通して人と海の共存について考えるきっかけが作れました。

【来館者の声】

- 自然の恵、命を頂くことの尊さ。
- 漁港や解体場は、自分ではなかなか見に行かれない（見るポイントもわからない）ので、ガイドしてもらえてよかったです。
- 他の方もおっしゃっていましたが、鯨のこと、銚に仕込まれた火薬のわけなど、知らないことがたくさんあるというのがわかりました。また博物館へ行きます。今日のイベントに参加できてよかったです。ありがとうございました。
- とってよい頭数が決まっているし、とれないことも多いのかな？と思いましたが、これからも地域の文化として続けていけると（残していけると）いいなと思いました。）

■「クジラのペーパークラフト」

【開催日時】 2022年8月27日（土）①10：30～11：30
②13：30～14：30

【開催場所】 千葉県立中央博物館 1階ホール

【参加者数】 24 人（①11人、②13人）

【実施内容・目的】

- クジラの体の構造について説明した後に、紙筒を使ってヒゲクジラのペーパークラフトを作成しました。最後にマジックで模様を書き込むことで好きなクジラに仕上げてもらいました。
- 実際に自分の手を動かしながらクラフトを作ることで、クジラの体の構造を体験的に理解してもらうことを目的としました。



会場全体の様子



クラフト作成中

クラフト作成前にクジラの体の作りについて説明し、ヒゲクジラとハクジラの違いも解説しました。展示と結びつけながら解説し、本事業終了後には展示を見に行き、標本や模型を見て理解を深めてもらうよう促しました。ヒゲクジラのクラフトを作成することで、ヒゲクジラ特有の器官であり、説明を受けても理解しにくいクジラヒゲの構造をについて直感的に理解していただけたようです。また、最後の仕上げで自分の好きなクジラにすることで、種類によって模様や背鰭の大きさなどが違うことも知っていただけました。クジラをはじめとする様々な生き物が生き抜くために様々な姿形を知っていただく機会になったと思います。

【来館者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 鯨の体について教えていただき乍らだったので とても良かったです。
- クジラの体についてくわしく教えてもらい、理解が深まりました。展示では千葉の食用捕鯨についてくわしく知ることができて良かったです。
- ペーパークラフト楽しかったです。

■「クジラヒゲのストラップづくり」

【開催日時】 2022年9月3日（土）①10：30～11：30
②13：30～14：30

【開催場所】 千葉県立中央博物館 1階ホール

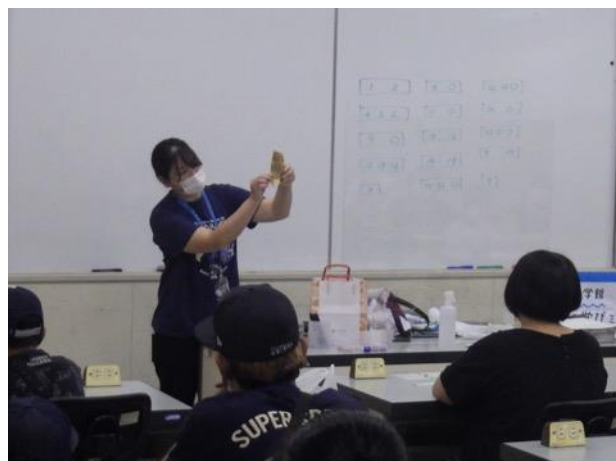
【参加者数】 50人（①25人、②25人）

【実施内容・目的】

- 参加者にハサミやマジックを使ってミンククジラのクジラヒゲを加工してもらい、根付をつけることでストラップにしました。
- 古くから工芸品にも使われるクジラヒゲを実際にもらうことで、クジラの利用について知ってもらう機会となることを目的としました。
- 加工しやすいようにクジラヒゲは事前にふやかしてあり、できるだけクジラが生きていた頃に近い状態でクジラヒゲを触る機会となることも狙いとしました。



クジラヒゲの説明



クジラヒゲの構造の説明

ストラップ作成前にクジラヒゲがヒゲクジラに特有の器官であることや使い方、クジラヒゲが爪と同じケラチンでできていることなどを説明しました。本物のクジラヒゲを使った黒ミンククジラの頭部模型が展示にあることなども紹介し、展示ももう一度見直していただくよう促しました。説明後、事前にふやかしておいたクジラヒゲを1人につき1枚配布し、加工前に触ってもらう時間を設けました。よくあるクジラヒゲのハンズ・オン標本や加工品は乾燥させて硬くなっていますが、クジラは海の中で暮らしているので本来のクジラヒゲは濡れて柔らかい状態であることを実際に触って体感してもらいました。また、濡らすことによってクジラヒゲ特有の匂いもしており、加工前に本物に近い状態のクジラヒゲを五感で感じてもらいました。

材料としたミンククジラについても説明し、比較的体の小さいミンククジラのクジラヒゲだからこそふやかせばハサミで切ることができること、ワシントン条約により今回作成したストラップは原則国外へ持ち出しができないこと等も説明しました。国際的な海洋生物の扱いと日本の鯨の扱いについて知ってもらう機会にもなりました。



クジラヒゲ加工前の様子



ストラップに加工している様子

参加者1人1人にマジックとハサミを渡し、好きな形に切ったり、絵を描くなど各々の好きな状態に加工してもらいました。加工が済んだものに職員がドリルで穴を開けてストラップ紐を通し、完成としました。クジラヒゲは濡れた状態のものなので数日かけて水分が抜けていくこと、その際にクジラヒゲが曲がる可能性があることなどを伝え、終わった人から解散としました。古くから存在しているクジラヒゲの工芸品を参加者自ら作る体験をすることで、海を利用する文化について目を向けるきっかけになってくれたと思います。

【来館者の声】

- くじらのひげからは、はじめてかいだにおいがしました。うみにはまだまだ知らないことがたくさんあるとおもいました。
- このひげを使って、プランクトンをこし食べているのかと思うと、鯨の食餌の大変さや、苦勞、プランクトンを守っていく海の大切さを学びました。
- ヒゲの左右や水に入れるとやわらかくなるなど・・・知らないことも多くとても発見が多かったです。
- ミンクくじらなどが元気で生きていけるように海を守ったりしようと思った

■「ホネール（鯨骨）ウォッチング」

【開催日時】2022年9月4日（日）13：30～15：00

【開催場所】千葉県立中央博物館 1階ホール

【参加者数】20人

【実施内容・目的】

- 鯨類の骨格標本や3Dプリントした縮小模型を使い、鯨類骨格の観察を行いました。
- 骨の質感や匂いを感じてもらうこと、骨や模型を手にとって観察することで三次元的に鯨類の骨の構造を理解してもらえよう工夫しました。
- 鯨たちがどのように体を作り替えて海に適応しているのかを知ってもらい、海の生き物に興味を持ってもらうことを目標としました。



クジラについての説明



頭骨（縮小模型）の観察

骨を触る前にまずはクジラについて知ってもらうためにレクチャーを行いました。私たちと同じ哺乳類であるため、骨の基本的な構造はよく似ていることや祖先は陸棲の動物で進化の過程で体の形が変化したことなどを説明しました。

説明終了後、まずは頭骨の観察を行いました。陸にいた頃とは鼻の穴の位置の違うこと、ヒゲクジラとハクジラの頭骨の形の違いなどを見てもらいました。ヒゲクジラ等大型のクジラの頭骨は取り回しが容易なサイズではないことから、3Dプリントの縮小模型を使った観察を行いました。

また、マッコウクジラの頭骨を例に成長に伴って骨の形が変化していくことも解説しました。展示室に大人と子供のマッコウクジラの全身骨格があるので、展示している標本の3Dデータを見せながら観察ポイントを説明し、展示室で改めて観察してもらうよう促しました。

縮小模型を利用したことで、実際に手に持って様々な角度から観察可能だったため、クジラの骨の形を直感的に理解できたようです。現生の鯨類の頭骨から見える進化の歴史を知り、海の生き物の生存戦略の面白さを知っていただく機会にもできました。



背骨の違いの説明



肋骨を並べている様子

1組に1個体分の肋骨や背骨の一部を渡して、触ったり、並べたりしてもらいました。触ってもらった骨は千葉県内に座礁したスジイルカ、オガワコマッコウ、スナメリのものであり、それぞれどこでいつ打ち上がったものかを紹介し、資料を収集するという博物館の役割についても知ってもらう機会としました。また、自分の触っている骨の由来を知ってもらうことで、より海の生き物に愛着を持っていただけたと思います。肋骨や背骨の形が部位によって異なることや哺乳類の特徴（首の骨が7つ）ことを学んでいただきました。最後に振り返りとしてコマッコウの背骨を1つ渡し、どの部位の背骨なのかを当ててもらいました。

1組1個体の骨を渡したので親子や友達同士で対話をしながら骨並べに取り組んでいました。また、熱心にメモや写真をとっている方も多く、最後のコマッコウの背骨の部位当ては全員が正解するなど、この事業で学んだことはきちんと身につけていただけたようです。

【来館者の声】

- 鯨と人間ってそんなにかわらない骨をもっている。
- そのままのビジュアルと骨格から想像できるビジュアルが違うから骨格標本は面白い！と改めて感じる事ができた。
- クジラの種類によって骨の形がちがうことを知りました。
- まだ知らないことが多く不思議なことにあふれていることを学びました

■中央博×鴨シー クジラの特別解説ツアー

【開催日時】 2022年9月11日（日）13：00～15：00

【開催場所】 鴨川シーワールド

【参加者数】 24 人

【実施内容・目的】

- 鴨川シーワールド協力のもと、クジラの骨格の解説・観察、飼育の話・バックヤードの見学、シャチやシロイルカの観察、シロイルカにタッチを実施しました。
- 鴨川シーワールド職員からのレクチャーも実施することで、海と関わる施設の活動について知ってもらう機会となるよう内容を工夫しました。
- 博物館の展示でも野生の鯨類観察でも体験できない内容にすることで、海の生き物への理解をより深めてもらい、海の環境についても知る機会ことを目標としました。



クジラの骨に関するレクチャー



飼育員によるシャチの解説

最初の1時間は座学でレクチャーを実施しました。前半は骨格に関するワークを行いました。骨の絵を渡して外見を想像してもらい、解説しながら答え合わせをしました。博物館のメイン展示となる骨格から生きた鯨類の姿を想像できるようになり、博物館の動かない展示がフィールドにつながるよう工夫しました。後半は鴨川シーワールド職員による鯨類の飼育に関する話をさせていただきました。普段見ている生き物たちの健康管理などをどのようにやっているかなど裏話を知る機会となりました。

レクチャー終了後はシャチ水槽に移動し、飼育員によるシャチの解説を実施しました。シャチが目の前まで来て尾びれや胸びれを動かして見せてくれました。体のつくりだけでなく、動かし方などもよく観察ができたようです。また、シャチが目の前まで来てくれたこと、飼育員が直接質問に答えてくれたことなどが特別な経験となり、強く印象に残ったようです。



水槽の濾過の仕組みの説明



シロイルカ水槽前での解説

場所を移動し、シャチとメガマウスの交連骨格標本を観察し、座学で学んだクジラの骨のつくりを改めて説明しました。魚類であるメガマウスと比較することで、鯨類の骨の特徴がよりわかりやすかったようです。その後、バックヤードにて水槽の濾過の仕組みの説明を受け、シロイルカにタッチをしました。ハクジラ特有の器官であるメロンの柔らかさや鯨類の皮膚の質感を実感してもらうことができました。博物館の展示では実現しにくい体験をしていただけました。

海の生き物の面白さや海洋環境について知ってもらうだけでなく、海に関係する施設の役割等にも知っていただく機会となりました。特別な体験ができたと感じた参加者も多かったようで、今後の自主的な海の学びにつながっていくように感じました。

【来館者の声】

- 海の生き物も人もにているところがあって、おもしろいと思った。かわいい生き物を見て海を大切にしないといけないと思った。ありがとうございました。
- 鴨川シーワールドのような施設が海を守ることに繋がっていると思いました。はでなパフォーマンスと共にこういう講習会みたいな行事をふやしてほしいと思います。また参加したいです。ありがとうございました。
- うみをもっとしりたいとおもいました。
- うみはたのしい。うみをきれいにたもって、いろいろないきものがずっとすごせるようにすることがたいせつだと感じました。

■講演会「鯨の文化誌～千葉の人々と鯨～」

【開催日時】2022年9月25日（日）13:00～15:00

【開催場所】千葉県立中央博物館 講堂

【参加者数】47人

【実施内容・目的】

- 小島孝夫氏（成城大学教授）に講師を依頼し、千葉の捕鯨文化についてお話いただきました。
- 展示内容について理解をより深めると同時に、現代の人と海洋生物との共存について考えるきっかけとなることを目的としました。



講演の様子



講演の様子

安房地域を中心に捕鯨文化について講演していただきました。現代の捕鯨にも触れた内容になっており、展示では扱いきれなかった部分を詳しく解説していただきました。非常に熱心な参加者も多かったようで、踏み込んだ内容の質問も出ました。たくさんの配布資料もあり、自宅に帰ってからも自分で学び直すことができるようになっていました。千葉県の鯨利用の文化について知るだけでなく、これからの海の生き物と人間の付き合い方について真剣に考える機会になったものと思われます。

【来館者の声】

- 海と人間の関わりについて 複雑だからおもしろい
- 捕鯨誌をきいてもっと知りたいと思った
- 講演会ありがとうございました。7月はいくじらのこと（種類、分類など）9月は和田浦のこと（千葉県の捕鯨の実際について）よくわかった。知れば知るほど関心も湧きますが少し悲しくなった

■ミュージアム・トーク

【開催日時】①2022年7月30日、②8月14日、③8月28日、
④9月18日、⑤9月23日

各回30分

【開催場所】千葉県立中央博物館 鯨展展示会場

【参加者数】63人（①13人、②12人、③11人、④15人、⑤12人）

【実施内容・目的】

- 展示担当学芸員が展示をダイジェストで解説しました。
- 担当学芸員の意図や思いを直接伝えることで、より展示内容に親しみを持ってもらい、理解を深めてもらうことを目的としました。



第1章の解説



第3章の解説

当日申込で展示をダイジェストで解説しました。毎回参加者の層が異なるので参加者の要望に合わせて説明箇所を変更して解説を行いました。30分の事業でしたが、興味のある人が多い回は任意参加で追加解説を行いました。参加者からの質問が多かった回は1時間以上になりました。一方的な解説ではなく、参加者側の質問に適宜答えることで展示内容の理解を深めてもらえたと感じています。自宅に戻ってから自分で調べ直し、質問のために後日再来場した方もいました。博物館の中だけで完結せず、家に帰ってから海の学びが続くきっかけとなってくれたようです。

【来館者の声】

- 30分の解説時間だと駆け足になってしまうので、もう10分ほど長いと良いと思います。質問に丁寧に答えて頂いたので、これからも更に興味を持って鯨をwatchしたいと思います。
- とてもおもしろかったです。最後PPTで良いので、ご講演聞きたいです。
- クジラの暮らす海を守りたいと思いました。

■高校生が考える！鯨肉レシピの開発

【開催日時】 2022年4月1日～9月25日

【開催場所】 千葉県立安房拓心高等学校、千葉県立中央博物館

【参加人数】 3,236人（生徒34人+レシピ集3,202人）

【実施内容・目的】

- 関東唯一の捕鯨基地から徒歩圏内にある安房拓心高等学校の生徒に鯨肉を使ったレシピを考案してもらい、その成果は展示およびレシピ集の無料配布を行いました。
- 地元の漁業に関心を持つきっかけとなることを目的としました。
- 伝統料理ではなく、高校生がレシピを考えることで、鯨を食べたことがない世代の鯨食へのハードルを下げ、千葉の海洋文化を理解し、考えるきっかけ作りとなることも目標としました。



展示の様子



レシピ試作の様子

前年度からアイデアを出し合いながら何度も試作を重ね、最終的に4種類のレシピを開発してくれました。鯨を料理するのは初めてという生徒も多く、地元の特産物でもあり、伝統的な食材でもある鯨の利用について考えてもらうきっかけとなりました。鯨独特の風味をどのように料理するか苦労したようです。

残念ながら博物館内で今回開発した料理を提供することはできませんでしたが、レシピのパネル展示を行うとともにレシピ集も作成し、自由に持ち帰れるようにしました。レシピ集を持ち帰った方も多く、千葉の鯨文化に関心を持っていただけました。

また、この事業をきっかけに安房拓心高等学校とホテルポートプラザちばで新たな連携が生じました。7月末から8月にかけてホテルのランチバイキングに1日20食限定で今回開発された鯨料理が提供されました。事前に生徒たちがホテルまで行き、ホテルの調理場でシェフと一緒に試作等も行ったようです。提供された料理も毎日すぐに売り切れだったようで、一般の方にも食としての鯨に触れていただく機会となりました。

■千葉くじら巡りスタンプラリー

【開催日時】2022年7月16日～9月25日（日）

【開催場所】市立市川考古博物館、鴨川シーワールド、鋸南町歴史民俗博物館、館山市立博物館本館、館山市立博物館分館 渚の博物館、銚子ジオパーク・芸術センター、銚子海洋研究所、道の駅和田浦 WA・O!、千葉県立中央博物館本館、千葉県立中央博物館分館 海の博物館

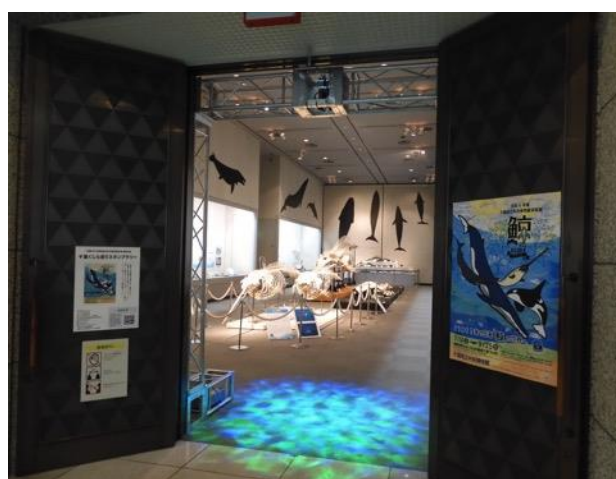
【参加者数】119人

【実施内容・目的】

- 千葉県内にある鯨関連施設を巡る電子スタンプラリーを実施しました。
- 千葉県全域に鯨と関連する施設があり、千葉が海と関わりの深い地域であることを実体験してもらうことを目的としました。
- 千葉県立中央博物館以外の施設に足を運んだ人が、千葉県立中央博物館で鯨の展示が開催されていることを知るといった広報的な役割も担いました。



協力機関での掲示



中央博物館での掲示

千葉県内の鯨関連施設10箇所を巡るスタンプラリーを実施しました。千葉で鯨を知るなら是非訪れて欲しい施設に協力していただきました。貴重な資料を展示している施設等が含まれているため、本展示で興味を持った分野について学びを深めることができるようになっています。また、海の近くにある施設も多く、海に足を運ぶきっかけにもなったと思われます。

また、スタンプラリーにより今回の展示を知った方もおり、広報の役割も果たしました。

■ワークシート

【開催日時】 2022年7月16日～9月25日（日）

【開催場所】 千葉県立中央博物館 展示室

【参加者数】 7,758人

【実施内容・目的】

- 小学生向けのクイズ形式のワークシートを作成しました。裏面にはクイズの答えの解説を載せてあり、自宅に戻ってからも見直すことができるようにしました。
- 子供たちにも楽しみながら展示の概要を学んでもらうことを目的としました。
- 展示会場が複数箇所にわたるため、各展示会場に1つクイズを置き、全ての展示会場を見逃さないようにすることも目的でした。



ワークシート答え合わせの様子



クイズのヒント展示の目印のクジラのキャラクター

自力で展示室を巡るワークシートを作成しました。多くの子供たちが挑戦してくれました。少し難しいクイズもあったため、親子で対話しながら楽しそうにクイズを解いている姿がよく見られました。博物館オリジナルのアンケートでも非常に好評であり、展示を楽しみながら見ることができた、少し難しいクイズを一生懸命解こうとするのでいい勉強になった 等との声がありました。楽しみながら展示を見ていただけたようです。

今回のワークシートは小学生向けに作成したものでしたが、大人でも挑戦する人も珍しくありませんでした。裏面に詳しい説明を載せていたためかそれなりに楽しんでいただけたようで、自力で海を学ぶきっかけとなってくれたようです。

■出張展示：花とくじらの絵画コンクール入賞作品展示

【開催日時】2022年7月16日（土）～ 9月25日（日）

【開催場所】千葉県立中央博物館 展示室廊下

【実施内容・目的】

- 千葉県南房総市和田浦で毎年開催されている花とくじらの絵画コンクールの令和3年度入賞作品43点を展示しました。
- 絵画コンクールに入賞した方（主に千葉県民）の来館を促し、地元千葉の海に関する展示に足を運んでもらうことを目的としました。
- 現在の千葉県と鯨の関わりの一部を知ってもらう機会にもなり、今後千葉県の海の活動に来館者が参加するきっかけ作りになることも目標としました。



展示の様子



展示の様子

千葉県内で行われているクジラに関する活動の発表の場にもなり、作品の飾られている方が家族や親戚と一緒に来館していました。子供や孫の絵が展示されているから博物館まで皆で見にきたという方も複数おり、展示を見にくるきっかけになったようです。

関係者でない方でもじっくり絵を見ている姿が見られました。絵を見ながら親子で対話をしている姿なども見受けられ、千葉県内の海に関する活動を広く知っていただく機会にできたと感じています。

■サテライト展示

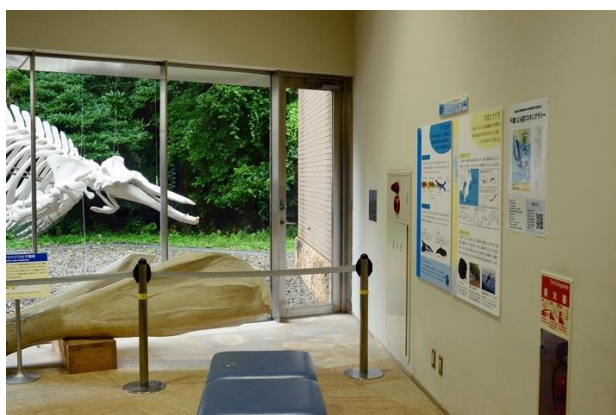
【開催日時】 2022年7月16日（土）～ 9月25日（日）

【開催場所】 千葉県立中央博物館分館 海の博物館

【参加人数】 21,480人

【実施内容・目的】

- 常設展示されているクジラ骨格周辺に追加の解説パネルを設置しました。
- 千葉県立中央博物館本館にはない大きなマッコウクジラの下顎の展示や本館とは異なるパネルの追加展示により、本館・分館両方に足を運んでもらうことでより充実した海の学びとなることを目的としています。
- 海がテーマであり、目の前に海が広がる分館海の博物館のクジラコーナーを充実させ、より海を身近に感じてもらうことも目的としました。



展示の様子



展示の様子

海が近く、夏には多くの方が来館する分館海の博物館でサテライト展示等を行うことで、海に興味のある方に本館で実施している展示を知っていただく機会になりました。

また、会場であった分館海の博物館は房総の海と自然をテーマにしているため、海に関する常設展示が充実しています。常設展示と併せて見ていただくことで、地元千葉の海の自然についてより詳しく知っていただく機会にできたと感じています。本館の展示を見た方でも分館を訪れていただくことで、より千葉の海を知るきっかけになったと考えています。

【事業全体のまとめ】

本展示では誰もが知っている動物である「鯨」を様々な角度から紹介することで、来館者に海の生き物の魅力や海を守ることの大切さ、人と海の共存について学び、考える機会を提供できました。地元千葉の海についても深掘りしたため、身近な海について考え、行動するきっかけを作ることができたと感じています。

本事業では、できるだけ立体物を使って直感的に理解できる展示を目指し、一般的には図解で説明されるような内容も模型を使って解説しました。来館者からは模型や骨格標本のおかげで初めてクジラの体の構造等を理解できたとの声もあり、立体物による海の学びの質の向上を実感しています。本事業で作成した模型や骨格標本は一部常設展示への移設しており、常設展示に移設していないものも今後のイベント等での活用を予定しています。本事業をきっかけに今後の海の学びの充実にもつなげることができました。

本事業ではお互いの不得意分野をカバーし合うような連携も実現できたため、今後千葉県で海の学びを発展させていくための土台作りができたと感じています。また、本事業をきっかけに新たに連携が生じており、施設と施設をつなぐ役割も実現できました。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 有限会社 銚子海洋研究所	付帯事業協力
2. 鴨川シーワールド	資料借用、画像提供、付帯事業連携
3. 外房捕鯨株式会社	付帯事業の材料提供
4. 館山市立博物館	資料借用、画像提供、付帯事業協力
5. 勇魚文庫	資料借用
6. 東京海洋大学 マリンサイエンスミュージアム	資料借用
7. 東京海洋大学 鯨類学研究室	資料借用
8. 道の駅 和田浦 WA・O!	付帯事業協力
9. 一般財団法人 日本鯨類研究所	資料借用、画像提供
10. 千葉県立安房拓心高等学校	付帯事業連携
11. 市立市川考古博物館	資料借用、付帯事業協力
12. 独立行政法人 国立科学博物館	資料借用
13. 太地町立くじらの博物館	資料借用、画像提供
14. 福井県立恐竜博物館	画像提供
15. 木更津市郷土博物館 金のすず	画像提供
16. 海洋研究開発機構	画像提供
17. 慶應義塾大学文学部民俗学考古学研究室	資料借用、画像提供
18. 千葉大学考古学研究室	資料借用
19. 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	資料借用、画像提供
20. 市原市教育委員会	資料借用
21. 鎌ヶ谷市郷土資料館	資料借用
22. 千葉県教育委員会	資料借用、画像提供
23. 和田地域センター	付帯事業協力
24. 本山立本寺	資料画像使用許可

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はありません。

25. 宗教法人立正安国会	画像提供
26. 菱川師宣記念館	付帯事業協力
27. 銚子市ジオパーク・芸術センター	付帯事業協力
28. ホテルポートプラザちば	応援プロジェクトの設置
29. 千葉県立東部図書館	関連特設コーナーの設置
30. 青葉の森公園芸術文化ホール	関連行事の実施
31. 千葉県立中央博物館 分館海の博物館	サテライト展示協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 朝日新聞	クジラ肉のタコライスに挑戦、5/12
2. 房日新聞	鯨肉メニューを考案、5/24
3. 福利ちば6月号（千葉県教育庁・互助会）	県立中央博物館特別展「鯨」、6/15
4. 千葉県観光情報7月号（千葉県観光物産協会）	千葉県立中央博物館 [千葉市]、6/21
5. ぐるっと千葉7月号（千葉県観光物産協会）	地域別イベント情報エリアスコープ、6/21
6. 千葉教育 No.674 蓮号（千葉県総合教育センター）	情報アラカルト！、6/23
7. 全科協ニュース vol.52 No.4（全国科学博物館協議会）	7月8月の特別展、7/1
8. まま・ここと 夏	おでかけナビ、7/1
9. 県教委ニュース vol.288（千葉県教育委員会）	イベント情報、7/7
10. あんふあん8月号	イチオンNEWS、7/8
11. 朝日新聞	美術館博物館、7/12
12. 日本環境協会子どもエコクラブHP	イベント情報、7/18
13. 観光情報8月号（千葉県観光物産協会）	千葉県立中央博物館 [千葉市]、7/19
14. メトロミニッツ（スターツ出版）	7/20
15. チーマガ（ちばマガジン）	チーバくんテラス、7/28
16. 朝日新聞	美術館博物館、8/2
17. 県民だより8月号（千葉県報道広報課）	8/5
18. くじら総合サイト くじらタウン（日本鯨類研究所）	耳ヨリくじら情報、8/10
19. 房日新聞	17人が捕鯨のまち散策、8/16
20. 千葉県観光情報9月号（千葉県観光物産協会）	千葉県立中央博物館 [千葉市]、8/16
21. 元気半島、ちば！（千葉県）	千葉県の美術館・博物館特集、8/18
22. 産経新聞	「クジラ県」の魅力一堂に 千葉での特別展で骨格や食文化を紹介、8/19
23. 京成らいん（京成グループ）	INFORMATION、8/25
24. びびなび市原	情報掲示板、8/25
25. 東京新聞	千葉の博物館研究員 企画展監修、8/26

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

26. 産経新聞	イベント（千葉）、8/26
27.ちば民報	県立博物館で「鯨」展、9/4
28.千葉市観光ガイド（千葉市観光協会）	イベント情報、7月～9月
29.JR 車内ポスター広告（JR 東日本）	7/18～7/24
30.JR デジタルサイネージ	7/1～7/31
31.京成バスラッピング広告	7/1～9/25
32.千葉県立中央博物館 HP	5月～
33.千葉県立中央博物館公式 Twitter	6月～10月

以上